

Neuro2019 若手道場優秀発表賞受賞者の声

東北大院医神経内科
秋山徹也

この度は伝統ある賞を頂戴し大変光栄に存じます。東北大学神経内科、鈴木先生、割田先生、青木教授、また慶應義塾大学生理学、岡野教授をはじめ、ご支援頂いた全ての方に感謝申し上げます。私は iPS 細胞を用いた筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の病態解明研究へ従事しており、ALS の軸索形態異常を発表させて頂きました。発表の場で頂戴した多くのご助言を元に、「ALS を治療可能な疾患へ」を目標に研鑽を重ねたいと思います。

九州大学大学院精神病態医学
扇谷昌宏

この度は素晴らしい賞をいただき大変光栄です。これまでご指導いただきました多くの先生方に深く感謝申し上げます。私は現在、ミクログリアと精神神経疾患をキーワードに、ベンチサイドとベッドサイドをつなぐトランスレーショナル研究を行っております。将来の精神神経疾患治療の役に立てるような研究を目指して今後とも精進して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

名市大院薬・博士後期課程3年
荻野ひまり

名古屋市立大学大学院博士後期課程3年の荻野ひまりです。この度は、素晴らしい賞を頂き大変光栄に存じます。これから論文にしようと思っているストーリーを初めて発表したのですが、発表技術や研究の方向性についても様々な視点からご助言頂き、大変勉強になりました。今後、頂いたアドバイスをともに、できる限り完成度の高い論文を作成したいと思っています。最後になりましたが、アドバイザーおよび学会関係者の皆様へ深く御礼申し上げます。

慶應義塾大学医学部生理学教室 助教、東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座（老年病科） 助教
加瀬義高

私自身、初めての Neuro でありましたが、その規模の大きさにはとても驚かせられるとともに、その学術集会で受賞できたことは、とても励みになりました。私は慶應義塾大学医学部生理学教室の岡野栄之教授のもとで、神経幹細胞・神経新生の老化のメカニズムの解明、また神経再生の研究に取り組んでいます。今回の Neuro2019 では、4 年間かけて取り組んできた遺伝子 p38 と神経幹細胞・前駆細胞の老化機序の関わりについて発表いたしました。今後は、更なる詳細メカニズムの解明、更には、その得られた知見を活かした神経再生への研究に取り組んでいく所存です。今後とも何卒宜しくお願い致します。

大阪大学
田沼将人

この度、Neuro2019 若手道場におきまして、優秀発表賞を拝受いたしました。このような素晴らしい賞を頂くことができ、大変嬉しく思っております。現在、大阪大学大学院薬学研究科神経薬理学分野にて、前障のストレスレスポンス神経細胞とストレスノンレスポンス神経細胞との分子特性の違いに関する研究を行っております。今後も研究に邁進してまいりますので、日本神経化学会の皆様、何卒宜しくお願い致します。

同志社大学生命医科学研究科
玉井湧太

同志社大学生命医科学研究科に所属しております、玉井湧太と申します。今回の Neuro2019 若手道場では優秀発表賞を受賞し、とても感激しております。私は、赤外光レーザーを用いた非侵襲人工内耳を開発することを目的として研究を行っております。具体的には、赤外光レーザーが生み出す「聞こえ」を明らかにするために、神経生理学的、行動学的実験を行っております。Neuro2019 での経験を今後の研究に活かすよう努めたいと考えておりますので、今後ともどうかよろしくお願い致します。

東京大学大学院新領域創成科学研究科
中村幸太郎

この度は、大変栄えある賞を頂戴しまして、誠にありがとうございます。初めて大会（2017 年仙台大会）に参加した時から、若手育成セミナーの先輩方が若手道場で堂々と発表する姿を見ていつか自分も思い早 2 年、この大舞台に立てたこと感謝申し上げます。今後は、脳梗塞など疾患を中心として、中枢神経系と免疫系の新しい接点を見出す神経免疫の分野を切り拓くべく研究に邁進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校 コールマン記念研究室 博士研究員
本間夏美

この度は優秀発表賞をいただき光栄に思います。私は現在、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校で博士研究員として、ラットを用い、行動実験や電気生理、計算論的手法を組み合わせ、「カクテルパーティー効果」のような背景音から目的の音を聞き分ける神経機構を研究しています。名古屋市立大学薬学部を卒業後、英国オックスフォード大学に留学し、フェレットを用いた聴覚神経の研究で博士の学位を取得しました。今後は、聴覚以外の情報を含め外界からの複雑な入力を脳がどのように処理するかを解明したいと思います。

大阪大学大学院薬学研究科 神経薬理学分野
松村憲佑

私は大阪大学薬学研究科の神経薬理学分野に加えて、博士課程教育リーディングプログラムの生体統御ネットワーク医学教育プログラムにも所属し、異分野の研究者との議論を重ねています。今回の受賞は、日々自分の研究について深く考えるとともに、異分野の研究にも興味を持って学びを得てきた成果であり、喜ばしく思います。卒業後は大学院での研究生活を糧に、製薬企業の研究職として中枢神経系領域の創薬の実現を目指します。

早稲田大学人間科学研究科分子神経科学研究室 修士課程2年
山田晴也

この度、Neuro2019 若手道場にて優秀発表賞を頂くことができました。魅力的な研究が多数ある中、私の研究が評価されたことは非常に嬉しく思います。現在は榊原伸一教授の元で、脳発生の研究、特に神経幹細胞に発現する新規遺伝子の発現・機能解析を行なっています。所属する早稲田大学人間科学研究科は、高田馬場の本部キャンパスとは異なり、埼玉県所沢市の山の上（通称：トトロの森）にあります。自然溢れる森の中で今後も研究に勤しんでいきたいと思っています。

富山大学和漢医薬学総合研究所 神経機能学分野 特命助教
楊 熙蒙

この度は、Neuro2019 若手道場優秀発表賞をご授与いただき、大変光栄に思うとともに、大会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。私は現在、アルツハイマー病に対する根本的治療法の確立を目指し、破綻した神経回路網の再構築を可能にする和漢薬の探索と、それを担う脳内機構の解明に取り組んでいます。将来は、ヒトの認知機能を改善させる新規治療薬を開発することを目指し、一層根気強く研究に精進していきたいと思っています。